

るもいの「食」「自然」を活かした関係人口の創出・拡大プロジェクト

【推進エリア】留萌地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

目 的

留萌地域は、米、野菜、果物などのバラエティ豊かで高品質な農産物、甘エビ、タコ、カレイ、ヒラメ、シジミなどの多種多様な水産物などの「食」に恵まれているほか、道内都市部とのアクセスが良く、暑寒別岳や天売・焼尻島、日本海の夕陽、キャンプ場、海水浴場、オロロンライン・サイクルルートなど、優れた「自然」にも恵まれています。これらの特徴を活かし、「食」の魅力を十分に活かしたブランド力の強化、付加価値の高い商品開発、戦略的なマーケティング[※]を通じた国内外へのさらなる販路拡大を進めるほか、「自然」の魅力について SNS[※]等を通じて発信を行うことで、関係人口[※]の創出・拡大を図るとともに、地域の産業振興につなげていきます。

施策展開

- 【施策】
- 地産地消や地域ブランドの創出に向けた取組の推進
 - 広域周遊観光や体験・滞在型観光等の推進
 - るもいファンの拡大に向けた魅力の発信
 - 持続可能な農林水産業の推進
 - 自然環境の持続的利用と保全、再生の促進

<プロジェクトの重要業績指標 (KPI[※]) >

○アンテナショップ（北海道どさんこプラザ[※]）におけるテスト販売採用商品

12品(R元～R5平均) → 15品(R11)

○るもい地産地消販売イベント 3回(R元～R5平均) → 8回(R11)

○観光入込客数 174万人(R5) → 214万人(R11)

○公式 Instagram のフォロワー数 2,082人(R5) → 5,000人(R11)

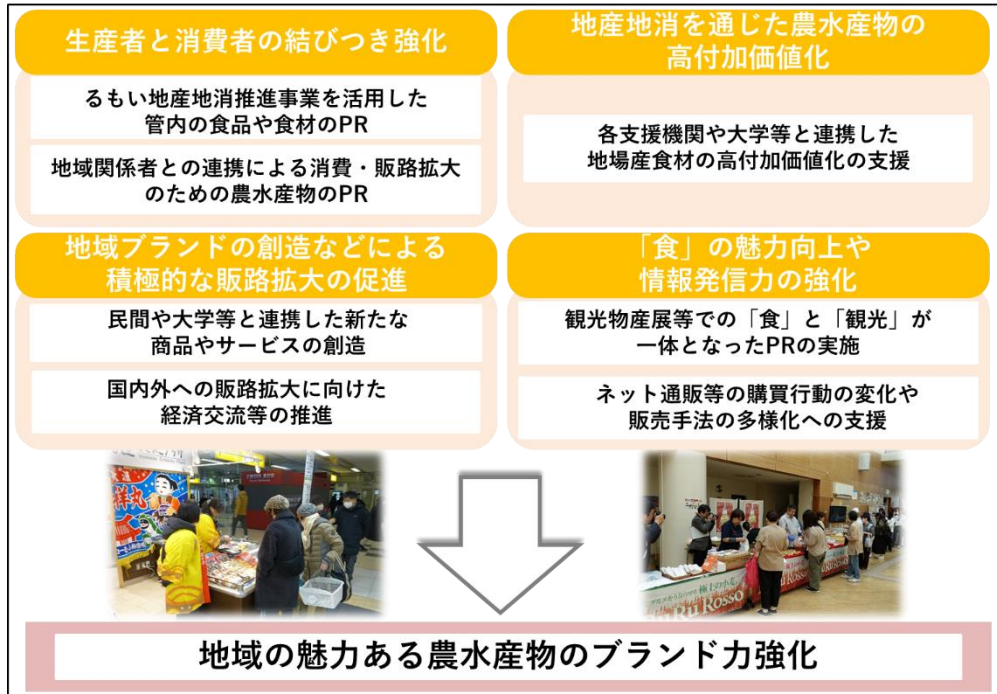
○農業産出額 1,764千万円(H30～R4平均) → 1,764千万円以上(R11)

○主要漁業の所得 31億(H29～R3平均) → 33億(R11)

<施策毎の主な取組方向>

■ 地産地消や地域ブランドの創出に向けた取組の推進

- 生産者と消費者の結びつき強化
- 地産地消を通じた農水産物の高付加価値化
- 地域ブランドの創造などによる積極的な販路拡大の促進
- 「食」の魅力向上や情報発信力の強化



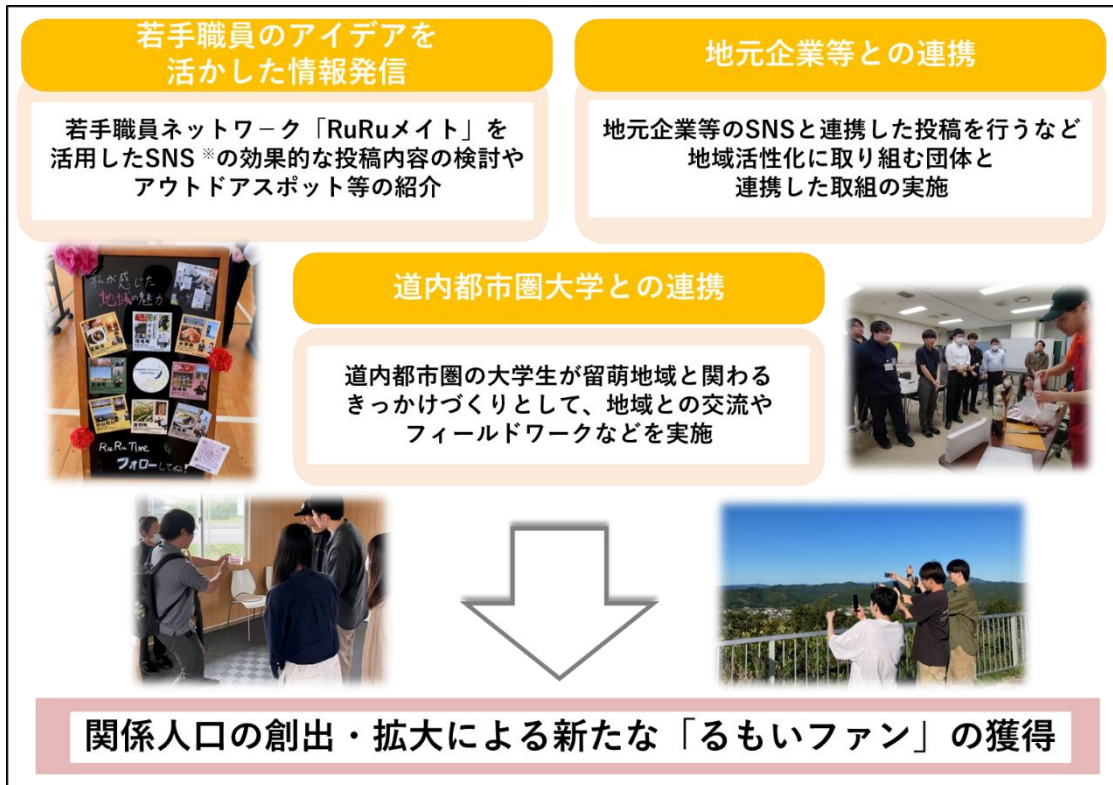
■ 広域周遊観光や体験・滞在型観光等の推進

- 体験型観光の推進
- 地域と連携した観光客の受入体制の整備・充実
- 各種イベントでのプロモーション
- 情報発信力の強化



■ るもいファンの拡大に向けた魅力の発信

- 若手職員のアイデアを活かした情報発信
- 地元企業等との連携
- 道内都市圏の大学との連携

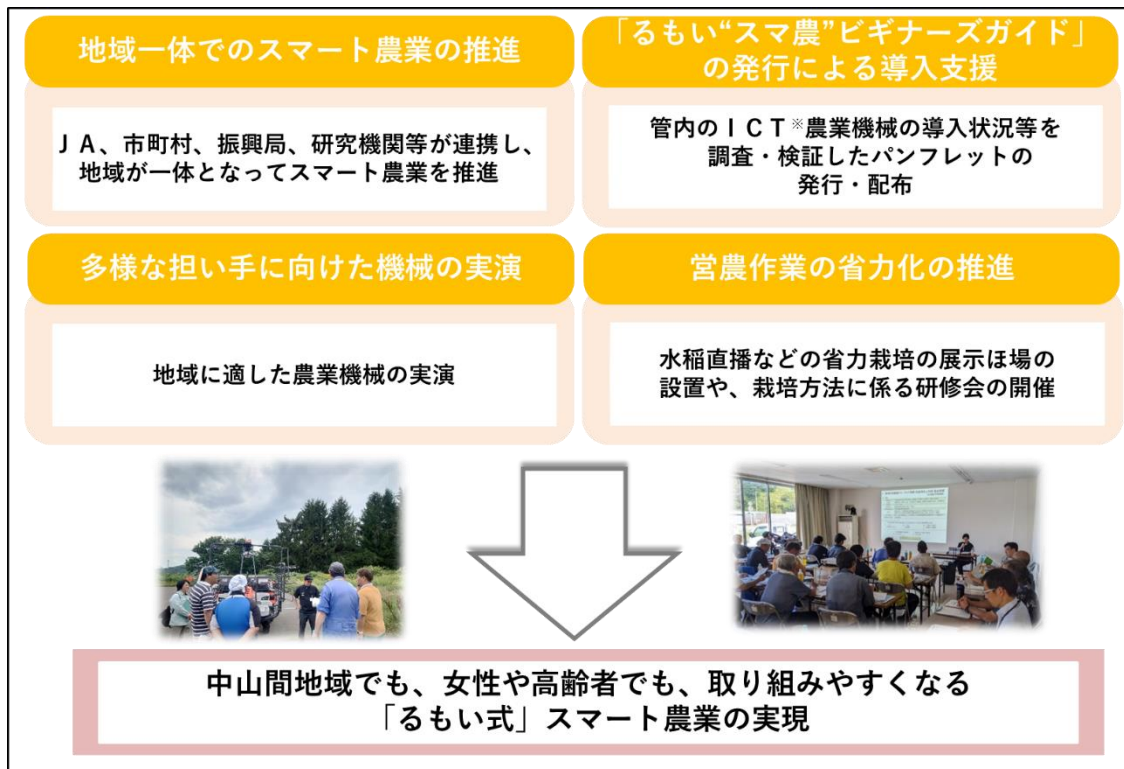


■ 持続可能な農林水産業の推進

- 生産性・収益性の高い農業の推進
- 環境と調和した農業の展開
- エゾシカ等の有害鳥獣による農業被害対策の推進



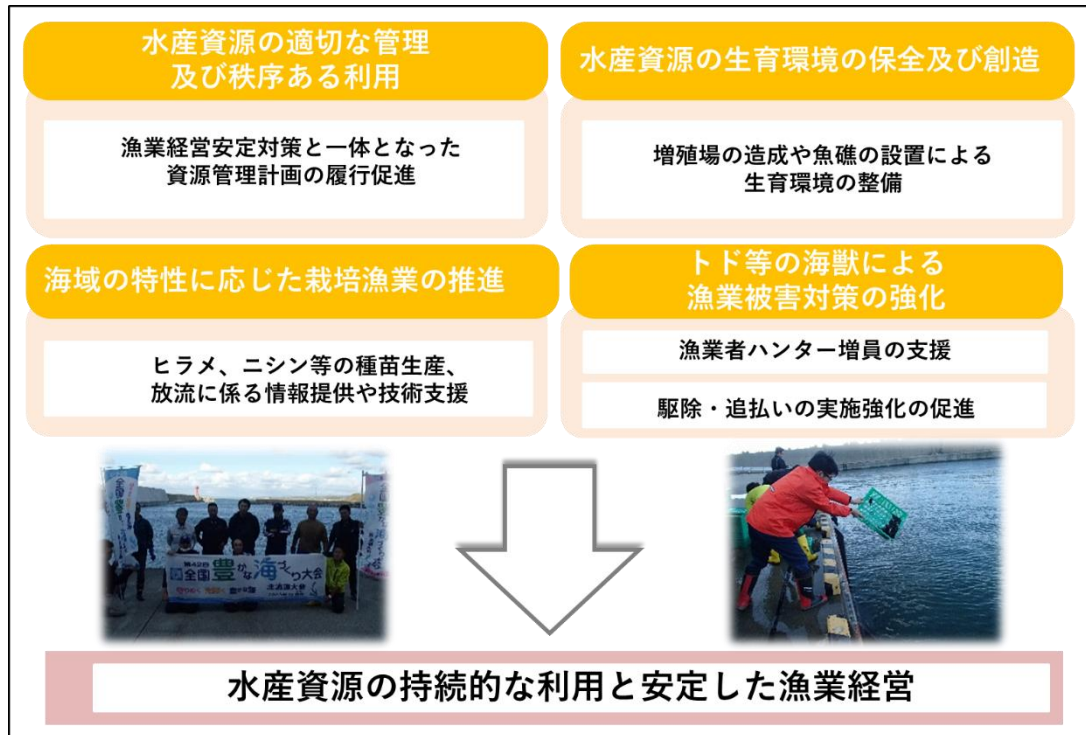
- 地域一体でのスマート農業[※]の推進
- 「るもい“スマ農”ビギナーズガイド」の発行による導入支援
- 多様な担い手に向けた機械の実演
- 営農作業の省力化の推進



- 適切な管理に基づく森林整備の推進
- 地域材[※]の利用推進
- 木育[※]の推進



- 水産資源の適切な管理及び秩序ある利用
- 水産資源の生育環境の保全及び創造
- 海域の特性に応じた栽培漁業*の推進
- トド等の海獣による漁業被害対策の強化



■ 自然環境の持続的利用と保全、再生の促進

- 暑寒別天売焼尻国定公園の保護と適正な利用
- 環境保全活動の推進
- 海鳥の保護活動の推進
- 環境教育の推進



関連する主な基盤整備

- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・交通拠点や物流拠点などと主要地、主要施設を結ぶ道路の整備
 - ・高規格道路と一体となった道路の整備
- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・農業生産基盤の整備
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備
 - ・農地や農業用施設の整備
 - ・海岸を侵食から守る施設の整備
 - ・河川改修など治水対策の推進
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
 - ・漁港の機能向上などの整備・漁場の整備
- 国際的な海上輸送拠点の整備・港湾の整備
- 国内海上交通ネットワークの整備
 - ・港湾の整備
- 適切な森林の整備と保全の促進
- 治山施設の整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・自然に配慮した河川・砂防施設などの整備
 - ・海岸保全施設の整備
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備

関連するSDGsの目標

